

平成30年度 自己評価表

鳥取敬愛高等学校

中長期目標 (建学の精神)	人格の完成、婦徳の涵養に努め、自主的精神に富める心身の健やかな国民を育成する。 「国際化・情報化社会の中で、自ら志を立て、誠意をもって、幅広く社会の発展に貢献する人間を育てる」
------------------	---

今年度の重点目標	(1) 学力の向上 授業の改善 基礎学力の充実 (2) 国際理解教育の推進 主体的にチャレンジする心を育てる (3) 基本的な生活習慣や社会性の育成 (4) 自己肯定感・成就感の醸成
----------	--

年度当初					評価結果 ( ) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状認識	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成の状況	評価	改善方策
学力の向上	授業の改善 ICT機器の活用実践 生徒の意欲喚起 授業規律の向上	・ICT環境の充実にともない機器を活用している教員は増えている ・目標と行動がともなっていない生徒もいる ・授業規律は概ね良いが、授業に対する興味・関心、意欲が不足している生徒もいる	・多くの教員が、ICT機器を用いた魅力ある授業づくりに取り組み、生徒の主体的な学びに繋がっている ・生徒が学ぶ目的を明確に持ち、意欲的に授業に取り組んでいる	・ICT機器の活用のため職員研修を行うとともに、機器を用いた公開授業を各教科で実施する ・機会をとらえ、お互いが、授業の改善策などを指摘し合える雰囲気をつくる ・生徒による授業評価を年間2回以上実施し、授業改善に活用する ・生徒との面談を通して生徒理解を深め、生徒の学ぶ意欲の向上を図る			
	基礎学力の充実 家庭学習の定着	・GTZ Dゾーンの生徒の割合は減少傾向にあるが、まだ十分とは言えない ・家庭学習をほぼ毎日行う生徒の割合はわずかに増加したが、学習時間が短く、授業の予習や復習をする習慣は定着していない	・GTZ Dゾーンの生徒の割合が各年次で年度当初より5ポイント減らす ・Bゾーン以上の生徒の割合20%をめざす ・家庭学習時間が増加し、授業の予習や復習が習慣化している	・e-learningを導入し、学びなおしはもちろんのこと家庭での学習にも活用できよう活用推進を図る ・Classiでの学習時間調査や動画を活用した家庭学習、反転授業を導入し、家庭学習の充実を促す ・放課後の自主学習や面接指導を通して、家庭学習における予習復習など継続した学習の大切さを自覚させるとともに、習慣化を図る			
国際理解教育の推進	主体的にチャレンジする心を育てる	・海外校の学校訪問など機会をとらえ、多くの生徒・職員が世界を意識するようになったが依然として自分の殻にこもりがちな生徒・職員もいる ・昨年の海外研修旅行では2年生全員が参加でき、外国での活動や学生との交流を通じて、一歩踏み出す勇気の大切さを理解しつつある	・「どうせ出来ない」などと決めつけたり、自分を過少評価せず、なんでもチャレンジしてみてもかき判断・思考する姿勢を持つ ・様々な手段を駆使して自分の意志や考えを相手に伝えようとする姿勢を持つ	・海外研修旅行をさらに充実させ、多くの生徒が将来の糧とできるようなイベントにしていこう ・参加型の海外体験事業を実施(7月JMP)し、シンガポールだけでなく多くの海外に触れられる機会を設ける ・タイのプッタモンthon高校との定期的な交流や他の海外校との学校交流などを積極的に受け入れ相互理解を深めることで、お互いの共通点や自分の可能性を発見する機会とする			
基本的な生活習慣や社会性の育成	基本的な生活習慣とマナーの定着	・多くの生徒が身だしなみに注意しルールを守った行動ができており、校内では規範的な行動ができるようになってきている ・校外での自転車・歩行・乗車マナーなど、市民から指摘を受けることがある	・基本的な生活習慣が確立されており、落ち着いた学校生活を送っている ・校外でのマナーやモラルもきちんと守り、家庭での生活習慣(起床・帰宅・学習開始・就寝などの時間等)が確立している	・服装や身だしなみを整えるといったことばかりでなく、遅刻をなくす等の時間厳守の取組や挨拶指導等についても、生徒とのきめ細やかな面談や家庭との密な連携の中で「気づき」の指導を徹底する ・生徒に将来の目標(進路)を設定させ、それに向けて自己管理に何が必要か考えさせることで生徒の変化を期待する			
	豊かな人間関係づくり	・生活アンケートやhyper-QUを活用して良好な学級集団づくりに取り組んでいる ・少数ながら人間関係がうまく作れない生徒もいる	・正しい自己理解と他者理解にもとづいて良好な人間関係を築いている ・生徒の様子の変化に迅速・適切に対応している	・生活アンケートやhyper-QU、個別面談等を通して生徒理解に努め、生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう促す ・保護者と担任、学年と環境保健部の連携をはかり、必要に応じて外部専門機関の協力を得る			
自己肯定感・成就感の醸成	学校行事・部活動などへの積極的参加	・敬愛祭での自主的な運営等、生徒会執行部を中心に学校をリードする取組が見られる ・部活動、特に運動部への加入率が停滞している	・生徒会活動や委員会活動に自主的で活発な取り組みが見られ、個々の参加意欲や貢献意欲が高い ・部活動が活発で、活動への意欲が高い	・学校生活の様々な場面で、お互いの良いところを見つけようと努力することを喚起する ・学校生活における様々な場面で、生徒個々の良さを見つけ声をかけるよう心掛ける ・自分を成長させる大切な場である部活動の意義を伝え加入を促すとともに継続して取り組ませる			

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化が見える D：まだ不十分 E：見直しが必要  
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]